



躍動感あふれるダンスで会場をわかせた松本美須ヶ丘高校ダンス部

## おもてなしの詰まった催し 文化祭・ひろば祭り



心のこもった作品が並んだ会場

第18回安原地区文化祭・ひろば祭りが10月13、14日に地区公民館で行われました。旭町小学校ブラスバンドのファンファレの後、実行委員長の保科守宏さんの「精いっぱいのおもてなしをします」というあいさつで始まりました。地域住民による、地域住民のためのおもてなしの詰まった催しに述べ5000人が

## 彩り豊かな発表と展示



子ども楽しんだお抹茶コーナー(上)とにぎわう展示コーナー



訪れました。

地区の小、中学生の展示作品や、松本美須ヶ丘高校ダンス部、あさひ学園の太鼓信大の音楽系サークルなど子どもたちのステージ発表が多く、盛り上がるのは安原地区ならではです。

また、第1回から参加している「ステップ21」は、いすに座ったままできるストレッチ体操を指導し、最後の一曲は軽快な歌謡曲に合わせて会場が一体となったストレッチタイムとなり好評でした。

今年2日目とす初めの試みでしたが、好天にも恵まれ充実した文化祭でした。



軽食を楽しみむ人たち(右)と民舞の発表





# 藤村の「破戒」に学ぶ 安原人権 地域の人たちが20人参加 推進協

安原地区人権啓発推進協議会（保科守宏会長）の室外研修が9月14日に行われ、小諸市の懐古園内にある藤村記念館で、文豪・島崎藤村が書いた社会小説「破戒」の時代背景などを学びました。会員や地域の人たち20人が参加しました。

藤村は小説で、出自を隠しながら生きる青年教師を主人公に置き、封建的不合理を日本の悲劇として取り上げました。一人ひとりの自由を根幹

とする個人主義の訴えは、その視点を与える作品として評価されています。

記念館の館長・川原田雅夫さんは「作品の舞台は飯山だが、藤村は小諸で人権やリベラルへの強い思いを蓄え、大作への構想を膨らませていった」と説明。参加者たちは藤村の生い立ちや経歴などとともに、作品への理解を深めていきました。

旧・筑摩郡馬籠村（現・中津川市山口）に生まれた藤村



川原田館長の説明を熱心に聞き入る参加者たち

壇に立つ傍ら、小諸の風土などを題材にした「千曲川のスケッチ」でも広く知られています。小諸時代の後半に書き起こした「破戒」の出版は賛否を呼んだ、と言われています。

記念館には藤村の作品や遺品、交遊関係を伝える資料などが多く展示され、熱心な藤村ファンが全国からいまも訪れているそうです。昭和33年の開館からちょうど60年になりました。

参加者たちは記念館のほか詩碑や城跡、小諸義塾記念館を見学するなど、懐古園のたずまいを楽しみました。

## 信大キャンパス 探検隊⑧

グローバル教育推進センター  
信州大学全学教育機構内にあるグローバル教育推進センターを紹介します。

留学生センター、国際交流センターの名称を経て、平成27年にグローバル教育推進センターとなりました。

留学生の受け入れと派遣・生活支援、国際教育・研究・

交流推進の役割を担っており、留学生の窓口になっています。

今年5月現在、信大への留学生は375人、その中の約半数が松本キャンパスに通っています。各学部や大学院への長期間の留学が多いですが、グローバル教育推進センターに所属する春期・秋期の半年間の交換留学生が70人ほどおり、元町の国際交流会館や民間アパートなどで暮らし

ています。

中国・韓国・ベトナムなど

## いちよう並木

「實婦人に例えられるキジヨウリヨウホトトギスは優雅でとても美しい」

秋を告げる山野草、ホトトギスの仲間、杜鵑の胸毛と紫斑が、花被片（花弁のように見えるところ）と似ているところから、その名がつけられました。

今回、紹介するキジヨウリヨウホトトギスは、花も豪華で美しく、ホトトギスの代表格、気品あふれる山野草です。

普通に見かける種類は、茎や葉に白い毛があり、本種にはありません。

下向きに咲くのが特徴で、栽培は比較的簡単で、夏季半日陰の場所で腐葉土の多い土地で管理します。

ユリ科ホトトギス属、耐寒性もあり、色々と集めて楽しみましょう。



キジヨウリヨウホトトギス



留学あつせんのためのチラシで埋め尽くされたセンター入り口